

東京大学東アジア藝文書院シンポジウム「香港、福島、水俣、その思索的巡礼」

第22・23回哲学論集研究会

日時：2023年3月2日（木） 11:30～14:30

場所：東京大学駒場キャンパス 101号館EAAセミナー室

春を迎えた東京にて、香港、福島、長野が地元の四名をパネラーに迎え、〈故郷とその喪失〉をめぐるシンポジウムを開催いたします。後半は、千葉ニュータウンや埼玉の田園で育った二人が加わり、転勤族だった塩谷賢さんもフロアから喧々諤々の議論に参加、石牟礼道子『苦海浄土』や九鬼哲学にかんする研究発表が行なわれます。

ご参加の方は、メールにて下記メンバーまでご連絡くださいませ。（懇親会も予定されています。）



水俣百間排水口 (Ching-yuen Cheung)

第21回・シンポジウム 香港、福島、水俣、その思索的巡礼 (発表順)

張政遠「アフターマス巡礼」

馬場智一「故郷喪失訴訟から考える〈ふるさと〉」

渡名喜庸哲「災後のしなやかさ：レジリエンス批判」

佐藤香織「〈離散〉を意味づける集合的記憶」

司会：横地徳広

□ 発表 11:30～12:30 □ パネラーとフロアによる自由討論 12:30～13:30

第22回・研究発表

横地徳広「苦海=苦界の生と無：芸術と表現」

司会：佐藤香織

コメント：宮田晃碩

□ 発表 13:30～14:00 □ コメントと自由討論 14:00～14:30

共催：東京大学東アジア藝文書院、哲学論集研究会（弘前大学西洋倫理思想史研究室）